

平成 24 年度

## LAS-E 優良事例集

遊佐町では、平成 19 年度から、環境マネジメントシステムを運用しています。

環境マネジメントシステムとは、環境に関する計画や目標について、「PDCA サイクル」で継続的に改善していく仕組みです。遊佐町では、環境自治体会議環境政策研究所が開発した LAS-E (環境自治体スタンダード) を導入しています。

LAS-E では、取り組みを住民から選ばれた監査員がチェックし、また取り組みの範囲も行政機関のみにとどまらず住民や事業者が行う活動も対象にしています。

このほど平成 25 年 2 月 5 日から 7 日にかけて、平成 24 年度の共通実施項目監査が行われました。その際に、特に優良と認められた取り組みについて、ご紹介します。

# 平成 24 年度 LAS-E 優良事例集

## ■企画課

### 「地域農業と日本の食料を守り、

### 持続可能な社会と地域を発展させる協同宣言」

平成 25 年 1 月 26 日に、遊佐町と生活クラブ生協と庄内みどり農業協同組合の三者が協同宣言を締結しました。40 年にも及ぶ生産者と生協組合員の交流の中で生まれた信頼関係のもと、遊佐町も含めて地域農業と日本の食料を守り、持続可能な社会と地域を発展させるため、一丸となって取り組むことを宣言しました。



宣言締結式

## ■企画課

### 「観光イベントごみ減量作戦」

観光イベントは、町の魅力を伝える機会として、町の産業を活性化させる機会として、大きな意味を持つものです。その一方で、多くのごみを生み出してしまいう側面も持っています。

遊佐町では、1 月の鱈ふくまつりの容器にリサイクルし易いものを使用している他、7 月の花火大会では、少年議会メンバーによってごみの持ち帰りを啓発するなど、イベント時におけるごみの減量に向けた取り組みを実施しています。



鱈ふくまつり容器回収の様子



花火大会ごみ持ち帰り啓発グッズ

## ■産業課・農業委員会

### 「共存の森づくり」

「共存の森」とは、平成 23 年度に町が取得した吉出字懐ノ内にある岩石採取跡地のことで、面積は 14ha、胴腹滝の北側に位置し、湧水の恵みを受けた豊かな水源地を持つ土地です。遊佐町では、湧水域と生活、農業用水そして自然生態系の保全のため、遊佐町環境基本計画に基づく保全を目指しています。

その取組みの一環として、平成 24 年 10 月 27 日にボランティアによる下草刈り作業が行われました。森づくりを進めるにあたっては、生態系を壊さないように新たな植林はせずに、自生している植物の再生力をサポートする活動をメインに実施していくこととしています。



ボランティア下草刈り作業



## ■地域生活課

### 「緑のカーテンプロジェクト」

町の公共施設で、節電・省エネの取り組みとして、ゴーヤによる「緑のカーテン」を平成 24 年度に初めて設置しました。

「緑のカーテン」は、つるが伸びる植物を育てて壁や窓をカーテンのように覆うことで暑さをやわらげようとするものです。その省エネ効果は、エアコン使用の約 2 割程度（平均で 25%）に相当するといわれています。さらに、小学校や保育園においては、このプロジェクトが環境教育や食育の教材として活用されました。

また今回は、遊佐町地球温暖化対策地域協議会（エコすまいるレディース）の会員も取り組み、今後の地域への波及も期待されています。



緑のカーテン（遊佐小学校）



立派なゴーヤが育ちました

## ■地域生活課 (関連：教育課)

### 「スポーツごみ拾い」

第 10 期少年議会の第 2 回本議会において、中高生の「大好きな遊佐町の自然を未来に残したい」という声をもとに、環境美化活動を実施したいという政策提言がされました。

このことを受け、町ではその手法として「スポーツごみ拾い」を提案しました。スポーツごみ拾いとは、チームに分かれて、定められた区域内で制限時間内にごみを拾い、その量と質でポイントを競うスポーツです。

そして平成 24 年 11 月 10 日、環境推進員、スポーツ少年団の協力のもと、少年議会主催による町で初のスポーツごみ拾いが開催されました。参加者は楽しく世代間交流をしながらごみを拾い、遊佐町の環境美化について考えるきっかけとなりました。



作戦を立てて、ごみを拾います



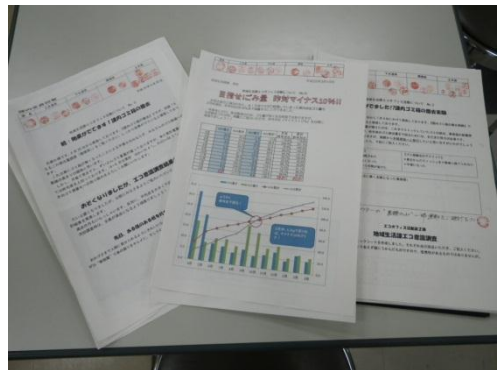
お疲れ様でした！

## ■地域生活課

### 「職員エコ度をチェック」

省エネの取り組みは、各個人の小さな取り組みの積み重ねが重要です。地域生活課では、エコ推進員が課内職員の省エネの取り組み状況についてアンケート調査を行い、各個人の「エコ度」をチェック、公表しました。

取り組み状況が「エコ度」として数値化されたことで、自身と他職員の取り組みを客観的に確認・比較することが可能となりました。この調査で各個人の課題が明らかになり、省エネの取り組み改善と意識向上を図ることができました。



エコ度チェックシート

## ■藤崎保育園

### 「保育園と家庭をつなぐリサイクル」

藤崎保育園では、園児、家庭が一体となったペットボトルキャップとプルタブの回収を実施しています。家族ぐるみで分別したものを、保育園の玄関に常設されている回収ボックスに収集しています。

保護者が「回収されたものは、どのようにリサイクルされ活用されるのか」を分かりやすく説明したポスターを作成し、園内に掲示しています。家庭での環境に対する意識の高さがうかがえます。

また、設置されている回収ボックスは西遊佐まちづくりの会から提供されたもので、保育園で回収されたものは西遊佐地区まちづくりの会へ寄託されています。地域とうまく連携した取り組みとなっています。



回収ボックス



回収量もボックスに掲示

## ■蕨岡小学校

### 「学校における環境配慮活動」

・蕨岡小学校では、学校の敷地内に地域の方が誰でも使用することができる「空き缶の回収ボックス」を設けています。回収した空き缶の売却益は、子ども達の活動に充てられています。また学校だよりで、この取り組みによる空き缶の回収量、収益、その用途を広報するなど、家庭や地域を巻き込むための工夫がされています。

・冬場の掃除の時、冷たい水の入ったバケツに手をいれるのはつらいものです。かと言ってお湯を使用すれば、ほんの少しかもしれませんが燃料が必要になります。蕨岡小学校では、あらかじめ水が入ったバケツを暖房のついた部屋に置き、温められた（常温）水を掃除の際に活用することで、湯沸かし器の利用を抑えています。



回収ボックス

## ■遊佐小学校

### 「地域特性を活かした環境教育」

遊佐小学校では、公園、月光川、湧水スポットなどでの動植物の採取、さつまいもや稲などの作物栽培を通じた食育など、恵まれた自然環境をより有効に活用した環境教育が実施されています。すべての学年がそれぞれに特徴的な取り組みをしており、例えば4年生は月光川の動植物を採取して校内の水槽で飼育し、より身近に自然を感じることができるように、手作りの水族館づくりをしています。

また、それぞれが環境教育で学んだ事を、次の学年（下級生）へ報告、発表する機会を設けており、学校全体で継続性を持って取り組みが進められています。



月光川探検 さっこしめ



水族館

## ■稲川小学校

### 「稲川小学校版 LAS-E の手引き作成」

LAS-E は全職場共通の手引書を用いて運用していますが、全ての項目を網羅しているため、職場によっては馴染まない項目が少なくありません。このことは、スタッフの取り組みに対する理解不足や、モチベーションが上がらない要因の一つとなっています。

稲川小学校では、LAS-E の項目と、学校で行っている取り組みや環境教育などを関連付けたシートを作成し、職員の研修に活用しています。わかりやすくまとめられたことで、職員間での共通認識が生まれ、取り組みが促進されています。

## ■高瀬小学校

### 「職務を活かしたエコ推進員の取り組み」

高瀬小学校では用務員がエコ推進員を務めており、その職務や技術を活かした取り組みが多く進められています。

ボイラーを使用するにあたって、昨年度から稼働記録や灯油使用量をチェックし掲示するようになったことで、職員の省エネに対する意識が向上しました。更に今年度からは前年の稼働記録を踏まえ、ボイラーの設定温度をこまめに調整したことで前年度より灯油の使用量を削減することができました。

また、「楽しくエコ」というモットーで、廃品をごみの分別コーナーや棚等に手作りでリフォームしており、廃棄物の削減にも積極的に取り組んでいます。



手作り！ごみ分別コーナー

## ■図書館

### 「ハイレベルな小さなカイゼン」

図書館では、省エネのためのハイレベルな工夫がされています。

- ・外気の流入を最小限にするため、入口の 2 つの自動ドアが同時に開かないように調整、内側は手で触れることで開くよう修繕
- ・入口の風の流れをビニールテープで確認した上で、吹込みを防止する風除けを設置
- ・空調の給排気の効率を上げるため、給気口を部分的に新聞紙で遮蔽

また、蔵書の保管上、室温・湿度が一定である図書館ならではの取り組みとして、ウォームシェアの登録をしています。住民が図書館で過ごして家庭の暖房を使用しなければ、家庭の CO2 排出量が少なくなり、地球温暖化防止につながります。

さらに、緑のカーテンの設置や利用者への省エネの呼びかけも積極的に実施しており、大きな改修に頼らず、小さな改善を積み上げることで、着実に省エネ成果をあげています。



新聞紙で給気口を部分的に遮蔽  
(空調の目隠しの裏)

## ■遊佐中学校

### 「生徒会が主体の省エネ活動」

遊佐中学校の省エネ活動は、職員の日々の業務における取り組みに加え、生徒会が主体となった取り組みが実践されていることが特徴的です。生徒会での活動の一つとして「昼の消灯タイム」を実施していますが、天候が悪く日照が少ない日は実施しないなどの判断は生徒会が独自に決定しています。生徒会へ一定の責任を与えることで、その主体性が生まれています。

## ■西遊佐まちづくりセンター

### 「地域ぐるみの環境配慮活動」

西遊佐まちづくりの会では、2年前からペットボトルキャップとプルタブの回収事業を藤崎保育園と西遊佐小学校との連携のもと始めています。結果を広報誌「松風だより」に掲載して回収量を知らせたり、青少年育成部がチラシを作成・配布するなどし、住民の意識を高めています。

また、地域の財産である黒松林を守るため、組織内の黒松保全部会では「砂丘地砂防林環境整備推進協議会」と連携し、小学校への協力を呼びかけ、植林（3校4年生）や「松枯れ観察会」を開催しています。

更に、昭和 50 年代から毎年 8 月に地域集落で競う花壇コンクールを実施しています。最近では、省エネ意識が向上したためか、緑のカーテンのようなアサガオやルコウソウなどの植物を育てる集落も増えています。



回収ボックス



花壇コンクール





## ■稲川まちづくりセンター

### 「手作りリサイクルバッグ」

稲川まちづくり協会では、施設で使用したカレンダーやポスターをリサイクルした手作りバッグを作成し、集落への配布物を入れる袋として以前から活用してきました。これを受け取った住民が取り組みに共感し、現在では家庭でいらなくなったカレンダーを、まちづくりセンターに持ち込んでくれるようになっています。

地域にリサイクルの取り組みが広がった好例といえます。



手作り！リサイクルバッグ



## ■しらい自然館

### 「再生可能エネルギー(木質バイオマス)の導入」

平成 18 年度にリニューアルした「四季の森しらい自然館」は、豊かな自然に囲まれた交流体験型宿泊施設です。しらい自然館の建築においては、地場産木材をふんだんに使用した他、町内の公共施設で唯一のペレットボイラー、ペレットストーブが整備されました。使用されているペレットは、病虫害の被害木や間伐材から作られており、それらを有効に活用しています。

しらい自然館は、「山形県 CO2 森林吸収量等評価認証（木質バイオマス認証）」を受けており、温度調節が難しいなどの課題はあるものの、再生可能エネルギーを導入した先進的な施設として、町内外への波及効果が期待されています。



ペレットストーブ